



介護タクシーを夫婦二人三脚で

シニアライフコーディネーター 武田 厚子

私たちの老後

[亭主元気で留守がいい]と言いますが、主人が定年退職した時「これから毎日家にいるの？このままではボケてしまうのでは？」とか「熟年離婚になるのでは？」と思いついて悩んでいると、地域のシニアライフの会合で、介護タクシーをしている方の話を伺いました。

亭主に話すと「僕も介護タクシーをやりたい」の一声で、二種免許を取りに教習所に通い始めました。介護タクシーの申請などの手続きは、協会同期の行政書士の方に格安でお願いしました。ヘルパーなどの介護の資格が必要ですが、亭主は看護師でしたのでオーケーでした。

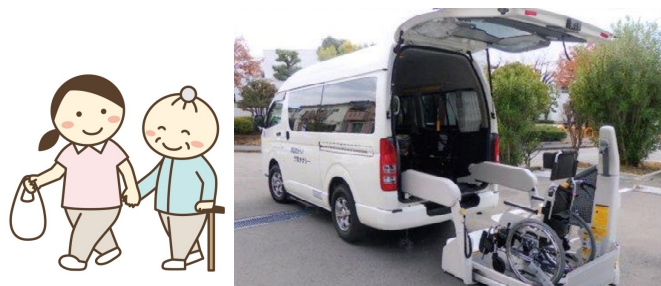
介護タクシーを始めるために

介護タクシーをするにあたり、リフト付きの新車を購入することになりました。老後のための蓄えからの支出です。趣味もなく、地域に友達がいるわけでもなく、仕事だけに生きてきた公務員でした。私が死んだらどうするのだろうと不安に思っていましたので、仕事を持つことは生活に張りができるのではないかと考えました。亭主が自分自身で決めた仕事ですのでボケ防止と考えれば車代ぐらい安いものです。

「始まり、始まり」介護タクシー

営業を開始してもすぐにお客様からの依頼があるわけではなく、車いす利用者の多い老人施設は、以前から営業している介護タクシーの方がいるので割り込むことができません。そこで、地元の個人の家にお客様になっていただくことにしました。時間があると、亭主と二人で近所のポストにチラシを投函し、最近では、孫がチラシ配布のアルバイトにきてくれます。

しばらくすると、介護タクシーの仲間が仕事を回してくれるようになり、介護タクシーの仲間とも話す機会ができました。お客様からの仕事の依頼、地域のケアマネジャーや福祉関係者と話すことも多くなり、定年前に比べて地域の人とのつきあいが確実に広がりました。



ひと山越えて再度車の買い替え

「今の車では、リクライニングの車椅子が載せられない」という理由で、あっさり、3か月で新車を売って中古の大きな車を購入。最初の車を購入する時に、十分話し合っただけですが、あの時は大きな車を運転する自信がなかったもので、勝手に普通の車いすが載れば良いと考えました。実際に仕事をして運転に慣れたところで、お客様の要望に応えたいと大きな車への買い替えになりました。

夫婦二人三脚で

毎日の売上や釣り銭の整理、帳簿つけ、パソコン入力が私の役割です。その他、地域の福祉関係の会議等でのチラシ配布と挨拶まわりも私の仕事。さらに、介護タクシーの助手席に乗って、送迎場所の下見にも同行しています。

チラシを配布した地域からポツリポツリと依頼が入るようになりました。しかし、地元での仕事がない時は、少し離れた地域の仕事をしていますので、地元の依頼を断ることになります。

地元貢献することを優先

私たちの介護タクシーの目的は、看護師の資格を活かし、今まで生活していた地域にお返ししたいことで、収入を求めるのではなく、地元貢献することを優先したいと思っています。

一人一人のお客様に思いを寄せ、悩みながらどのような介護タクシーにしていくかを毎日語り合っています。定年退職後の限りある生活を考えた時、今まで生きてこられたことに感謝した老いの生き方が、介護タクシーのありかたでもあることを二人で確認しています。